

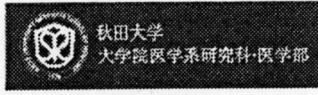
ひきこもりの現状と支援 を考える



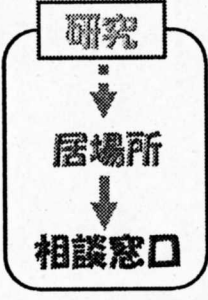
ヨシキム フォン ロザリン
秋田大学大学院医学系研究科 助教
lcoin.furatto@gmail.com

対象者	全国の市区町村 層化二段無作為抽出法				
	調査員による訪問留置・訪問回収			郵送法 (オンライン回答併用)	
調査方法					
調査時期	2010年 2月	2015年 12月	2017年 12月	2022年 11月	
年齢 (歳)	15 - 39 歳	15 - 39 歳	40 - 64 歳	10 - 69 歳	
標本数	5000人	5000人	5000人	10 - 39 歳 40 - 69 歳	2000人 1000人
回収率	65.70%	62.30%	67.40%	10 - 14 歳 15 - 39 歳 40 - 69 歳	54% 40.9% 52.1%
出現率 n (%)	59人 (1.79%)	49人 (1.57%)	47人 (1.45%)	10 - 14 歳 15 - 39 歳 40 - 69 歳 (40 - 64) 歳	63人(4.14%) 144人(2.05%) 155人(2.97%) 86人(2.02%)
長期化	調査なし	>7年 34.7%	>10年 36.1%	10 - 14 歳 15 - 39 歳 40 - 69 歳	9歳以下から 30.2% 14歳以下から 12.5% > 5年 (29.2%) > 10年 (17.4%) 60歳から 45.2% > 5年 (34.2%) > 10年 (15.5%)
広義ひきこもりのうち、 家族以外の人と会話しなかった 主婦・主夫、家事手伝い、家事・育児・介護・看護	23.40%			15-39歳 40-69歳 (40-64歳)	33.3% 32.9% 45.3%

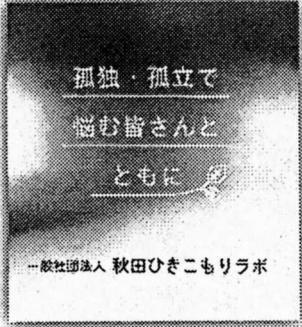
公衆衛生学
助教
2015-現在



ひきこもり
支援モデル
の開発



15 秋田ひきこもりラボ



博士
2010-
2013



修士
2006-
2008



学位
1997-
2000



ふらっと
10周年

ひきこもりの定義

曖昧なところが多い

様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念である。

なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないことに留意すべきである。

- 不登校？依存症？就活・就職失敗？家庭環境が問題？精神疾患が原因？人間関係苦手が原因？病気や身体障害が原因？…
- ひきこもり、実際何が問題なのか？どこからどこまで問題なのか？

ひきこもりにかかわる様々な問題

1. 心理的・精神的問題

- うつ病、社会不安障害、強迫性障害、不安障害など

2. 身体の問題

- 体力低下、肥満、睡眠障害、栄養不良など

3. 教育・職業における問題

- 学業の遅れ・中断、就職先の選択肢が狭い

4. 就労の困難さ

- 経験や社会的スキルが乏しく、就労が難しい

5. 貧困

- 8050問題、生活困窮、借金

6. 自殺

内閣府平成22年第1回ひきこもり実態調査の2次分析(N = 3,262)

ヨシノ & 野村 Front Psychiatry (2019) 10:247

- 家族に申しわけない
- 生きるのが苦しい
- 死んでしまいたいと思う
- 絶望的な気分になる
- リストカットなどの自傷行為

➡ 自殺の要因

- 人に会うのが怖いと感じる
- 知り合いに会うことを考えると不安になる
- 他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる
- 集団の中に溶け込めない

➡ 対人関係困難

ひきこもり状態とメンタルヘルス要因との関連	Model 1 OR (95% CI)	Model 2 OR (95% CI)	Model 3 OR (95% CI)
自殺の要因	1.85 (1.56 – 2.20)	1.33 (1.05 – 1.67)	1.24 (0.98 – 1.57)
暴力傾向	1.29 (0.91 – 1.83)	0.87 (0.59 – 1.28)	0.95 (0.64 – 1.41)
対人関係困難	2.30 (1.93 – 2.76)	2.10 (1.64 – 2.68)	1.95 (1.52 – 2.51)
強迫性行動	1.57 (1.20 – 2.05)	2.78 (0.55 – 1.09)	0.80 (0.56 – 1.14)
依存 (薬依存)	1.93 (1.37 – 2.70)	1.16 (0.79 – 1.72)	0.96 (0.64 – 1.45)

Model 1 = オッズ比は年齢、性別、家族の数、学歴・職業で調整されている

Model 2 = オッズ比は年齢、性別、家族の人数、学歴・職業、すべての精神医学的要因で調整されている

Model 3 = オッズ比は年齢、性別、家族の人数、学歴・職業、すべての精神医学的要因、および精神科治療歴で調整されている

ひきこもりの人の一つの特徴として、**他人から助けてもらったとき「ありがとう」という感謝の気持ちより、「申し訳ない」「相手に迷惑をかけてしまった」という気持ちが強い**ということがあります。例えば、何かに挑戦するとき「無理ではないか」、「できないのではないか」、「ダメなのではないか」と考えます。自分の能力に自信がないように見えますが、実は自分に対する評価が気になっているのです。幼い頃は大人の要求通り、期待通りの実績や結果を残すことができたとしましょう。大人が喜ぶ姿を自分の喜びと思い、自分の好き嫌いではなく評判を保つことを目標にしてしまう。つまり、他人の評価に基づいて自我を形成してしまうのです。このような幼児期と思春期を過ごしてきた若者の中には非常に自分に厳しく、失敗を恐れ、SOSを出すことすらできない人もいます。新しい挑戦をしたくないのではなく、その結果失敗したら「迷惑をかける」「親をがっかりさせる」という恐怖を持っています。そして、**失敗した時の自分に対する怒りも半端ではなく、その怒りを周りのせいにしてしまう**こともあります。

「ふらっと」の対象者（2013年に発足する際の予想）

- ① 30歳代中心、ひきこもり期間が長い
- ② 今まで居場所に行っても続かない
 - ・人間関係できちゃうと行かなくなる
 - ・自分の居場所と思わない
 - ・行きたくない
- ③ ひきこもりの時間を大切にする
- ④ ひきこもりの仲間が欲しい

最初の仲間

- ▶ ひきこもりは不本意⇒ひきこもりたいではない
- ▶ 人と接したい、でも踏み切れない⇒悩む
- ▶ どうするかわからない⇒優柔不断⇒臆病

仲間が教えてくれたこと

ひきこもり支援の研究

既存の支援はなぜ効果が乏しいのか？

居場所でのマイペースと調和のバランスを探る

利用者が利用し続けたいモチベーションを作り出す

ピアスタッフの養成

相談はさりげなくの会話から深めていく



外観：中に見える透明な前面ガラスづくり

相談の空間：オープン・スペース、パーティションなし（共有空間）

利用の流れ：立ち寄りたときに立ち寄り

利用の登録：任意

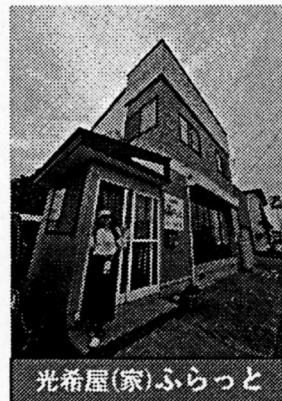
利用期間：無期間

開場日時：週5日、11時～19時

（火水休み、週末開業）

ふらっと

10周年



目標：

- ・地域のひきこもり者への偏見及び当事者と家族の自分への**偏見の低減**を図る

趣味を糸口としてその人の**潜在能力を引き出す**

（その人だからこそできることを見出す）

- ・地域の人と互いに支え合う、**共生社会の実現**

評価方法：

- ・当事者の**笑顔**の表出頻度
- ・居場所への**来訪頻度**
- ・**利用時間**の長さ
- ・主体的に**他者に話しかける**頻度
- ・K6など様々な**自記式心理尺度**
- ・**日記**を用いた利用者の自己受容の様式
- ・他者への**感情表出**や**自己開示**の程度
- ・相談対象者数。

ふらっと

気楽にふらっと支える。お互いの立場や違いを認め合い、同じ目標（フラット）で交渉できる。そんな居場所であってほしいな。

Tuesday, October 10, 2023

発達障害シリーズ (1)

11月14日(火) 10周年兼ねたフォーラムですが、「発達特性と職場の適応」。小泉健一（高野総合法律事務所）と対談する登壇者募集中。この機会に、いくつかの発達障害に関する記事を紹介させていただきます。第1 「フェルトが私に友運を連れてきてくれた」

娘のこころ

君の頬の涙を拭かなくてもっと笑った顔が見たくて君の事が知りたくて近寄るとすり抜けていく君はまるで次の影絵にも間に合うことのできない君のペンチはいつも充いていない足音が聞こえたと去っていく姿はまるで近所の猫 そうかと思えば今にも口笛吹きだして口を弾上げて...

Saturday, September 30, 2023

スプーン

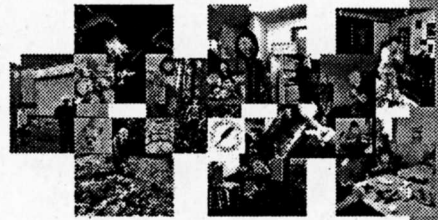
あのね、本当は...から続く言葉はすぐ裏に変わって途切れた。溢れた。こんな時は決まって記憶の海へに溺れにいり。あまりにも深い。涙だらけの過去の海流に任せ...

自分と向き合う活動、活動情報の発信、お互いを知ることで、「偏見」を少しずつ解けていく。

「ふらっと」の活動内容や理念に関する詳細な説明が記載された文章。

「ふらっと」の活動内容や理念に関する詳細な説明が記載された文章。

手紙コーナー



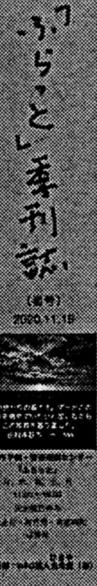
「ふらっと」

「ふらっと」は一人ではない。ずっと共にいて、互いに支え合っている。お互いの立場や違いを認め合い、同じ目標（フラット）で交渉できる。そんな居場所であってほしいな。

「ふらっと」の活動内容や理念に関する詳細な説明が記載された文章。

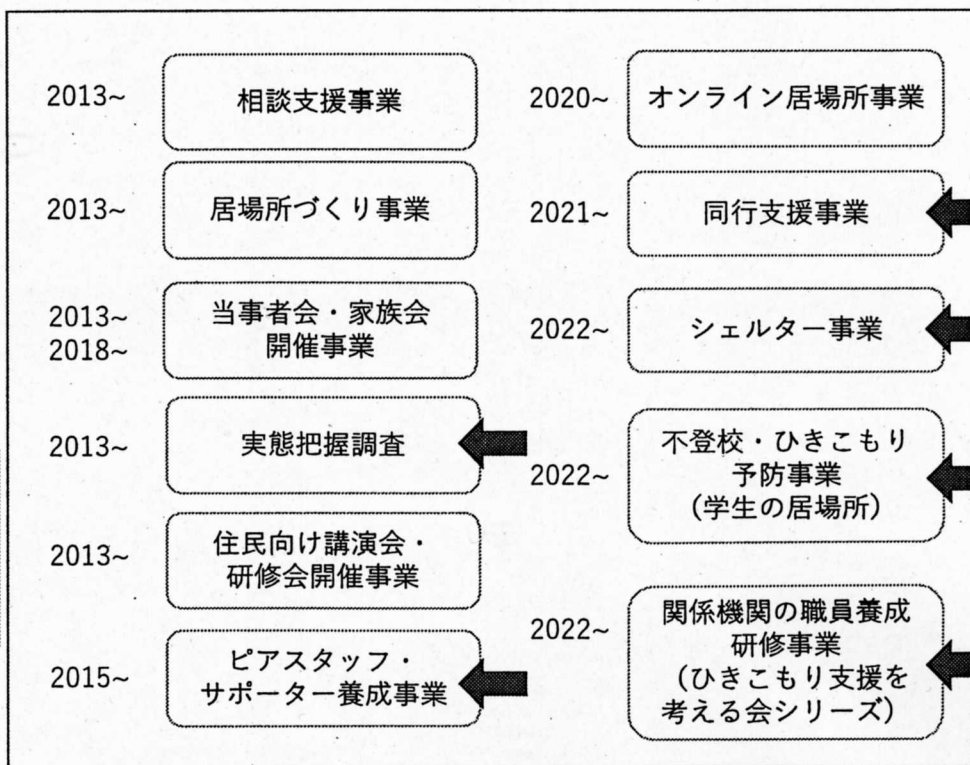
「ふらっと」の活動内容や理念に関する詳細な説明が記載された文章。

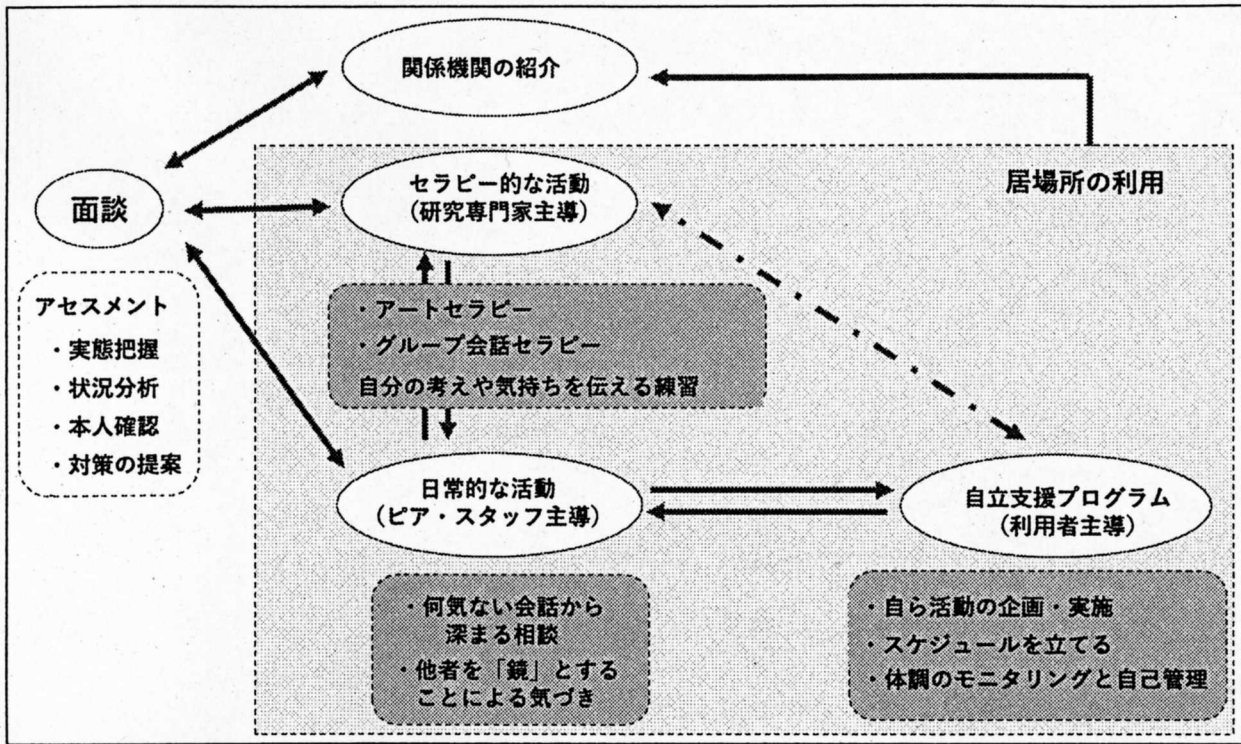
「ふらっと」の活動内容や理念に関する詳細な説明が記載された文章。



ふらっと 10周年

「ふらっと」の特徴は最初から民・学との関係が持っていること。業務の特徴による、民・官・学との連携が欠かせない。





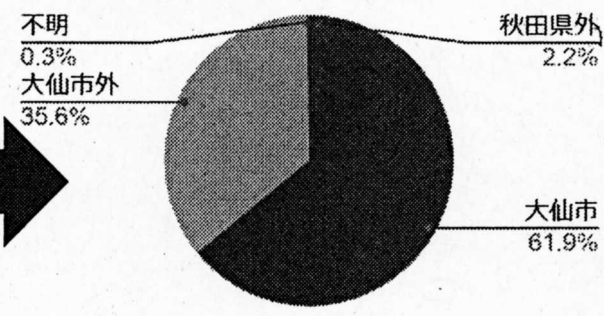
居場所「ふらっと」の利用の流れ：面談から居場所の利用と自立支援プログラムへの参加



不登校・ひきこもり像の変化と増加

年	利用人数
2016年	1,487人
2017年	1,952人
2018年	2,143人
2019年	1,958人
2020年	2,055人
2021年	5,299人
2022年	6,612人

利用者の地域分布



問：利用者は何を求めているのか？

孤立・孤独に陥ることを防ぎ、社会的なつながりを構築する事業

1人で悩まないで～



孤立・孤独について、相談しにくい。
誰と相談すればいいのか、わからない。
相談しても、何もならないだろう。気持ちをうまく伝えられない。
信じてもらえるのか…不安。理解されない寂しさ、恐怖。恥ずかしい……

もう一人で抱えないで、一緒に考えましょう～

…誰かとつながりましょう…

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉院阿比岐事業所

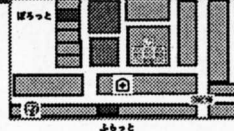
火、木、土 9:00-17:00
大仙市大曲須和町2-1-10



運営：特定非営利活動法人 光希屋（家）ひきこもり支援隊「ふらっと」
大仙市大曲須和町1-6-46「ふらっと」 メール：kodoku.furatto@gmail.com

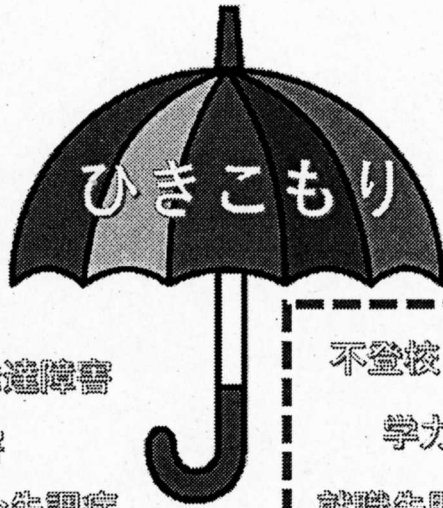
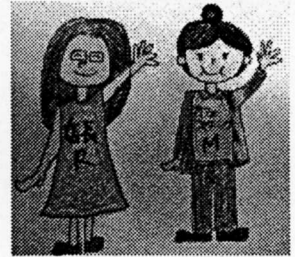
「ぼろっと」

その他の
時間
は…



「ふらっと」
の新たな試み

「ぼろっと」



知的障害

発達障害

気分障害

統合失調症

身体障害

機能障害

不登校

学力の不足

就職失敗

離職

スキルの不足

臆病

対人関係

いじめ

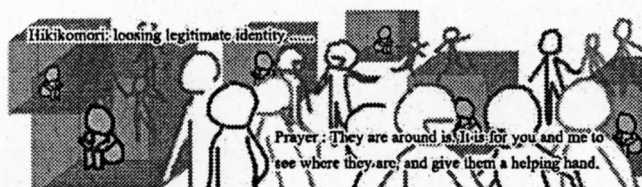
家庭環境

失敗体験

秋田県の「ひきこもり者」は実際どれぐらい？

- 秋田県15~64歳人口(令和4年10月1日現在) 484,454人
- 秋田県健康福祉部障害福祉課(令和2年) 実態調査 987人
- 内閣府ひきこもり実態調査
(平成29年) 1.51% → 7,315人
(令和5年) 2.04% → 9,882人
- 秋田県A町健康調査(平成25年) 6.7% → 32,458人

秋田県の実態調査は本当に千人未満なのか？



「家庭暴力やDVと違って、ひきこもりの問題は出てこない。個人の問題とされているから、私たちに相談してくれない。事例報告がないと分からない、守秘義務もあるし、知るのが難しい…」民生委員A

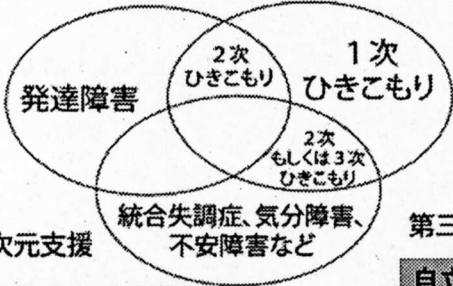
より効果的なアプローチを目指す！

- 1.弱音を吐ける安心な場づくり(ひきこもりの予防)
- 2.ピアスタッフを活用(長期ひきこもりの社会復帰)
- 3.早期発見と包括的な相談支援(負の連鎖の断ち切り)
- 4.ワンストップ相談センター設立(早期支援)
- 5.実態把握と施策効果の検証(エビデンスと多職種連携)

ひきこもりの種類と支援

環境の修正・
支援機関の掘り起し

第二次元支援



第一次元支援

第三次元支援

背景にある精神障害に
フォーカスした支援

自立する過程に
おける挫折に
対する支援

2007年12月15日 第99巻 社会福祉 第14号 923

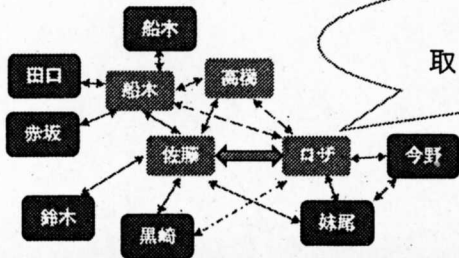
特別論文

年代別ひきこもりの課題、予防、対策

ロザリン・ヨン 船木 保美 高橋 雄一 美幸田洋美
谷口 仁史 伊藤 弘人 大早 哲也 妹尾 明純

ひきこもりの状況や種類が区別しづらいため、相談の初期段階から多職種の協力と連携が非常に重要。

対象者の環境と成長歴を十分に理解し、ひきこもりの背景にある要因をできるだけ把握することが効率的な支援の鍵です。

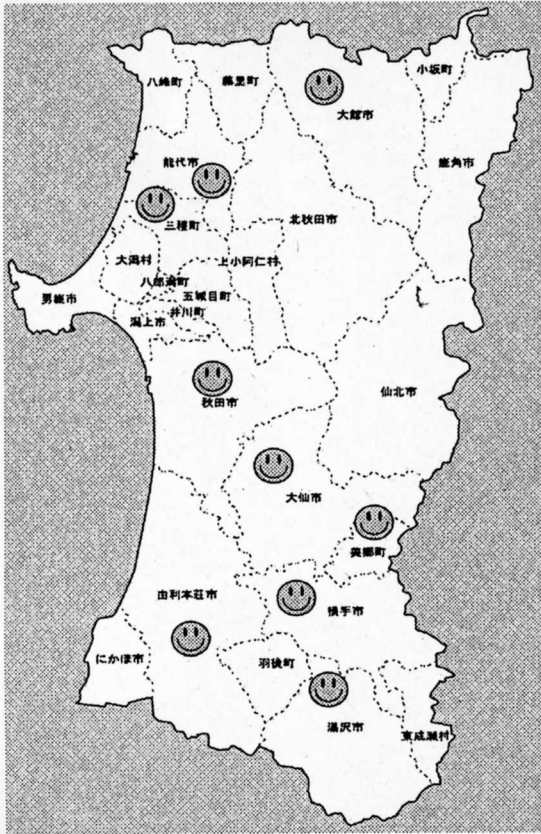


ひきこもりの問題を真剣に
取り組むには皆の力を借りたい！

・秋田ひきこもりラボ設立メンバー



秋田大学	ロザリン・ヨン
エフエム秋田	船木 保美
NPO法人蜘蛛の糸	佐藤 久男
きららホールディングス	鈴木 嘉彦
冠婚葬祭エール	真鍋 悟
エフエム檜台	黒崎 一紀
産業雇用安定センター	赤坂 和仁
株式会社ねこの手	船木 洋子
秋田市社会福祉協議会	田口 悟
秋田ばっけの会	妹尾 弘
NPO法人光希屋 (東)	今野 未夏
秋田魁新報社	高橋 雄悦



法人会員	地域
秋田市社会福祉協議会	秋田市
秋田県青年会館	秋田市
エフエム秋田	秋田市
NPO法人KOU	秋田市
NPO法人あきたアグリネット	湯沢市
NPO法人光希屋(家)	大仙市
長信田の森若者就労支援センター	三種町
一般社団法人あきた就労サポートOne	由利本荘市

現在の会員の構成	
研究者	学生
当事者	管理職
親	経営者
一般	投資家
介護福祉士	教育者
精神保健福祉士	市議会議員
社会福祉士	新聞従事者

2023.10.14 現在

会員数

34人

秋田県で「ひきこもりを生み出さない」地域づくりは可能？

1. 「ソーシャル監視」から「ソーシャルサポート」への切り替え
2. 教育の質を重視
3. 県内雇用基盤の強化
4. 失敗から学ぶ教育
5. 個々の強みを尊重
6. 包括的な支援と考慮



秋田ひきこもりラボの役割

ラボ＝研究

実態把握の改善:

調査方法を改善して正確なひきこもりの実態を把握したい。

地域社会への啓発:

ひきこもりは社会全体の問題であり、社会の理解を深めたい。

支援体制の改善:

調査結果をもとに支援策や制度の改善を検討し、多様な支援を提供したい。

予防策の検討:

ひきこもりの要因を理解し、予防策の開発に取り組みたい。